

年

組

番氏名

「

」

題名「

誤意同読
ごいどうどく

」



◎創作した故事成語の説明

私が創作した故事成語は、「誤意同読（ごいどうどく）」です。
この故事成語の意味は、漢字の通り、同じ読み方の言葉だと誤った意味で相手に伝わってしまうということです。これは、四コマ漫画にも描いたように、「良い席を」「E席」という意味でとらえてしまい、コミュニケーションに障害が伴ってしまったという経験をしたのを聞いたことから、つくりました。

この故事成語をつくるときに工夫したことは、漢字をおただけで大体の意味を予想できるようにしたことです。多くの故事成語はそれをもっと知らずに漢字をおただけでは意味が分かりません。例えば、「矛盾」は辻褄が合わないことですが、矛と盾自体はその意味と何の関係もなく、意味が予想できません。そのため、漢字をおただけで大体の意味が予想できれば、分かりやすく、誤用されず、しまり可能性も低いと思います。

年 組

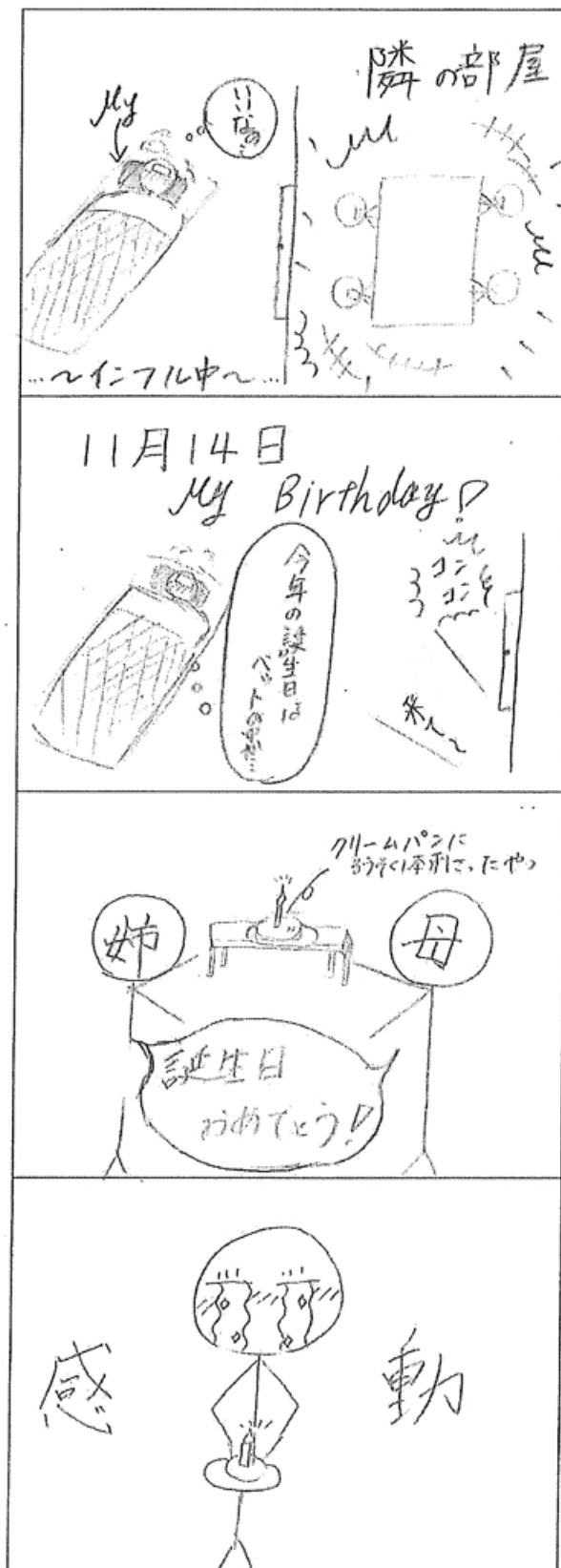
番氏名「

題名「

病
弱
倍
嬉

「

」



当時4~7歳

◎創作した故事成語の説明

(少し四字熟語ばななをいれました)

これは、私が小学校に入る前か、小学校低学年くらいのときのお話です。

私は自分の誕生日の3ヶ月前くらいにインフルエンザにかかりました。いつもならすぐに熱が引くのに、そのときは思以上に長引き、その間は誕生日を向かえることにならずにしまいました。『今年は寂しく向かえるんだな』と寂しく思っているとき、母と姉に呼ばれたのでいんどいんど思っているながらもその居る所へ行きました。ドアを開けると、『誕生日おめでとう』というサブタイトをしてくれました。母と姉の後ろには7人ほどのクリームパン1個にろうそくが刺さっており、私に渡してくれたのです。私は急に嬉しくなりました。感謝の思いが込み上がり涙を流してとても喜ぶました。食卓が居る所にも金魚を飾りつけたのですが、そのクリームパン1個を口にしたとき、これまで以上に美味しい物は無いと思うくらい驚きと美味しさを感じました。

この経験をもとにこの故事成語を作りました。他の人が読んだら、『こんな小さなことで』と思うかもしれませんが、私にとっては、私にとっては当たり前のことですが、当たり前ではないと深く感じられる経験となりました。

『病弱倍嬉(びようばくはいし)』

『病弱』なので弱っているとき、いやでなことがいつもより倍に嬉しく感じること。